

# RACE REPORT



SUPER  
FORMULA

Round.04 **AUTOPOLIS**

第4戦 オートポリス

2023年5月21日(日)

決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 坪井翔

決勝：3位

#39 阪口晴南

決勝：リタイア

5月20日(土)の公式予選では、坪井翔が自身にとって嬉しいキャリア初のポールポジションを獲得、阪口晴南も復調の3番手と、第4戦オートポリスの予選日は午前のフリー走行での不調から見事なりカバリーをみせて上位を占め、喜びに沸いたP.MU/CERUMO・INGING。これを決勝レー

スでのワン・ツーに繋げるべく、チームは快晴に恵まれた5月21日(日)に向け準備をしっかりと整えていった。

奇しくもこの日は、坪井の誕生日でもある。もちろん目指すはバースデーウインだ。決勝レースに向け、まずは午前10時から行われた30分間のフリー走行に臨んだ。

## PRACTICE フリー走行

5月21日(日) 10:00~10:30 天候：晴れ 路面：ドライ  
ベストタイム #38 坪井翔 1'30.328 / #39 阪口晴南 1'32.197

第4戦の舞台であるオートポリスは激しいアップダウンはもちろん、路面が非常に荒く、タイヤの摩耗は日本でも最も厳しいコース。決勝レースで好結果を残すためには、なるべくタイヤを守りつつ、かつ高いペースでラップを重ねていきたい。そのためのセットアップをしっかりと煮詰めていくことが、このオートポリスでは他のコースと比較してもレースでは重要となる。

風があることから気温は13度と涼しかったものの、日射しがあり路面温度は31度と高めのコンディションのなか行われた午前10時からのフリー走行では、坪井、阪口ともにセッション開始とともにコースイン。坪井はまず一度ピットに戻り、その後7周目に再度ピットへ。途中、スピン車両などが発生したものの、赤旗中断はなく、一度のピットインのみで継続してセットアップを修正していった。

坪井は3周目に1分30秒328というベストタイムを記録した後、コンスタントに1分31秒台のタイムをマーク。決勝に向けた手ごたえを得ていった。ただ、2番手スタートの#15 リアム・ローソンは坪井よりもややペースが良い。決勝に向けやはりマークすべきは#15 ローソンであることを感じさせた。坪井はこのフリー走行を2番手で終えている。

一方、阪口は2回のピットインをこなした後、連続周回に入っていく、10周目に1分32秒197というベストタイムをマークした。順位としては20番手で、ラップタイムは1分32秒台がほとんど。坪井とはやや差がある状況だった。

坪井、阪口ともにこのフリー走行で得たデータをもとに、さらなるペース改善を目指すべく、ピットウォーク等のスケジュールをこなしながら、短いインターバルの間セットアップの改善に取り組み、決勝レーススタート前の8分間のウォームアップ走行を使い、セットアップを最終確認した。





## RACE

## 決勝レース

5月21日(日) 15:00～ 天候:晴れ 路面:ドライ  
ベストタイム: #38 坪井翔 1'30.164 (27L) / #39 阪口晴南 1'31.683 (16L)



午後3時からの決勝レースは、気温23度/路面温度38度というコンディションで迎えた。初めてのポールポジションからのスタートとなった坪井だが「思っていたよりも緊張はしなかった」と、程よい緊張感とともにレースに臨んだ。

スタートでは坪井が好発進をみせる一方、最大のライバルとも見ていた2番手の#15 ローソンがやや伸びない。逆に、3番手から得意のスタートを決めてみせたのは阪口だ。一気に坪井に並びかけ、P.M.U./CERUMO・INGINGの2台が先頭に並んで1コーナーへ突入する。イン側の坪井がトップを守ったが、チームにとっては首位に坪井、2番手に阪口と続く願ってもない展開となった。

ただ坪井は序盤から、いまひとつフィーリングが良くなかった。2番手の阪口も同様だったものの、中高速コースであるオートポリスは前走車の空気の乱れの影響が大きく、#15 ローソンもなかなか阪口に接近することができず、その間に坪井は少しずつ差を広げていくことに成功した。

そんな流れに業を煮やしたか、#15 ローソンはピットウインドウがオープンしてすぐの13周目にピットに入り、アンダーカットを狙ってきた。当然、2番手の阪口もこれに対応するべく、14周目にピットインを行うが、#15 ローソンのペースが速い。ピットアウトした阪口の鼻先をかすめるかのように1コーナーへアプローチしていき、阪口はピット作業をこなしたなかでの2番手に順位を落としてしまった。

そんななか、#15 ローソンの前方にはまだピットインを行っていない下位グループが近づいてきた。これを#15 ローソンは処理していくが、その間にトップの坪井はペースを上げたいところだった。しかし、中盤以降坪井は少しずつペースが苦しくなってしまう。#15 ローソン、阪口のピットインにともない2番手に浮上していた#37 宮田莉朋が坪井の背後に接近してきてしまい、#15 ローソンとの間に築い

ておきたい差も足りなくなってしまった。

坪井はたまたま25周目にピットインを行い、チームは6.3秒の作業で送り出したが、#15 ローソンがやはり坪井を先行してしまっただけで済んだ。とはいえ、これで諦めるわけにもいかない。#15 ローソンに対し、坪井のタイヤはフレッシュ。これを活かし、27周目には自己ベストタイムをマークし#15 ローソンに肉迫した。

一方の阪口はピットアウト後#5 牧野任祐を従え、表彰台を狙う戦いを展開していた。しかし27周目、#5 牧野との間にピットアウトしたばかりの#53 大湯都史樹が急接近。28周目、ジェットコースター

ストリートと呼ばれる下り坂で阪口にバトルを挑んできた。

阪口はきっちりインを守り、ターンインに備えていたが、予期せぬタイミングで#53 大湯が左リヤにヒットしてきた。幸い阪口はコースに留まることができたが、左リヤホイールにダメージを負い緊急ピットインを強いられ、さらに翌周にはダメージの影響でリタイヤを強いられてしまう。#53 大湯はグラベルにストップし、その後危険なドライブ行為としてペナルティを受けた。

このアクシデントでレースはセーフティカーが導入されるが、これが坪井にも悪い流れとなってしまった。#15 ローソンへの追撃に水を差されてしまったばかりか、セーフティカー中にピットインした#37 宮田に再開後の38周目にオーバーテイクを許してしまったのだ。

これで坪井の順位は3番手となり、さらに後方からは#3 山下健太や#20 平川亮が接近してきた。坪井はこれをなんとか退け3位でフィニッシュしたが、強力なレースペースと良い流れがあれば届いていた優勝を逃す結果となった。坪井とチームにとっては、今季コンスタントに表彰台を得ていることで自信には繋がったが、一抹の悔しさも残った。





# COMMENTS

## ドライバー／監督コメント



### 38 坪井 翔 SHO TSUBOI

「昨年までは表彰台すら遠い存在でしたが、今回3位を悔しいと思えるくらい成長できたのかなと思っています。決勝レースに関しては、少しペースが足りなかったですし、セーフティカーのタイミングも最悪でした。今回レースペースが遅かった理由をしっかりと見つけなければならないと思っています。とはいえ、今季は速さがやっとなってきて、ライバルのトップチームと戦える良い兆しが見えているのはすごくポジティブです。次戦はスポーツランドSUGOでのレースとなりますが、良い流れが来ていると思いますし、あとひとつ歯車が噛み合えば優勝も見えてくると思うので、こういったレースを今後も続けられるようにしていきたいなと思っています」



### 39 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「スタートでワン・ツーになったときには個人的にも気持ちが沸き立ちましたし、チームも盛り上がったのではと思います。そこからはレースを支配できていたものの、僕のペースがピットに入るか、入らないかの判断を迫られるあたりから落ち出してしまい、難しい状況になりました。ちょっとずつペースが落ち出しているの、そこは直さなければいけないところだと思います。とはいえ、今回ニュータイヤでタイムが出ているようになってきているのは前進なので、今回のように常に上位で走れるようにしていきたいですね。接触自体はすごく残念ですし、僕としてはどうしようもなかったところなので、チームには申し訳ないですが、そこは切り替えていきたいです」



### 立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「序盤はワン・ツーと非常に良い展開でしたが、その後はロングランのペースの面で少し負けていましたね。そんななかでもチームとして精一杯やってきました。3位はポールポジションから考えると残念な結果かもしれませんが、今季坪井選手はずっと表彰台圏内でのレースをしているので、これを毎回続けていけば勝つチャンスも出てくるし、『3位で残念だ』と言えるのは、逆に言えば非常に良い状況だと思うので、またリベンジしたいと思います。阪口選手も良いレースをしてくれましたが、接触は残念のひとつですね。非はないと思います。阪口選手も良くなってきているので、次戦きちんと結果を残しにしていきたいと思っています。皆さん応援ありがとうございました」



# RACE REPORT

## RESULT

リザルト

### 第4戦オートポリス 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	15	L. ローソン	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:06'44.008	
2	37	宮田莉朋	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:06'45.263	1.255
3	38	坪井翔	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:06'49.273	5.264
4	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:06'49.577	5.569
5	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:06'50.564	6.556
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:06'56.189	12.181
7	65	佐藤蓮	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:06'58.450	14.442
8	12	福住仁嶺	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'02.399	18.391
9	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'04.997	20.989
10	18	国本雄資	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'06.031	22.023
11	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'06.402	22.394
12	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'07.224	23.216
13	36	G. アレジ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'08.788	24.780
14	1	大津弘樹	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'09.072	25.064
15	55	C. ブリュックバシェ	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'09.504	25.495
16	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'13.650	29.641
17	51	R. ハイマン	BYOUBUGAURA B-MAX SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'13.941	29.933
18	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'15.230	31.222
19	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'24.395	40.387
以上完走 (規定周回数 36 Laps)							
-	50	松下信治	BYOUBUGAURA B-MAX SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	35	58'01.994	6Laps
-	39	阪口晴南	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	34	58'12.045	7Laps
-	53	大湯都史樹	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	28	44'20.411	13Laps

### ドライバーランキング

Rank.	No.	Driver	Total
1	15	L. ローソン	57
2	37	宮田莉朋	53
3	38	坪井翔	46
4	1	野尻智紀	42
5	20	平川亮	28
6	3	山下健太	25
7	65	佐藤蓮	11
8	64	山本尚貴	10
9	5	牧野任祐	8
10	12	福住仁嶺	8
11	53	大湯都史樹	8
12	39	阪口晴南	7
13	7	小林可夢偉	5
14	4	小高一斗	5

### チームランキング

Rank.	No.	Driver	Total
1		TEAM MUGEN	89
2		VANTELIN TEAM TOM'S	52
3		P.MU/CERUMO・INGING	47
4		KONDO RACING	30
5		ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	28
6		TCS NAKAJIMA RACING	21
7		TGM Grand Prix	9
8		DOCOMO TEAM DANDELION RACING	8
9		ThreeBond Racing	8
10		Kids com Team KCMG	6
11		docomo business ROOKIE	2